

## 対人距離の発達的变化に関する投影法的研究

渋谷昌三

MAPSの考え方を利用した投影法的な質問紙を考案した。この質問紙を用いて、対人距離の使い方が子どもの発達とともにどのように変化するかを調べた。被験者は小学校1年生から6年生であった。

研究Iから、①友人に対する距離は、男子は3年生から、女子は2年生から、同性より異性にたいして大きくなることがわかった。②5年生以上になると、異性に対する距離の使い方は他の人たち(同性の友達、先生、両親)と質的に違うことが示唆された。

研究IIから、ソシオメトリック・テストによる学級内の地位の高さと対人距離の使い方との間に一定の関係のあることがわかった。

以上の研究から、対人距離の果す役割が発達とともに変化していることが示唆された。

キーワード：対人距離／個人空間／MAPS人格テスト

投影法検査を利用して、親和欲求と対人距離との関係(渋谷, 1982a<sup>1)</sup>; 1982b<sup>2)</sup>; 1982c<sup>3)</sup>)および、不安傾向と対人距離の関係(渋谷, 1984<sup>4)</sup>)が明らかにされた。そこで本論文では、こうした投影法的方法を用いて、対人距離の発達的变化を検討することにした。

### 1. 研究I：対人距離の学年ごとの変化

初期の母子関係にあっては、母親が子どもと他者との間に生じる緊張を緩衝する役割を果しており、子どもと他者との間には母親を媒介とした距離が設定されているように見える。子どもの発達にともない、子ども自身に独立した自我領域が生じ、やがて他者と自己との距離が規定されてくるものと思われる。

市橋秀夫(1979)<sup>5)</sup>によれば、対人場面での距離のとり方は、2～3歳ごろから準備され、7～8歳でかなり明確になり、思春期で完成すると考えられている。

そこで本論文では、対人場面における対人距離の明確化される時期を確認し、対人距離の発達の役割を検

討することとした。

#### <研究目的>

対人距離が確立してくるのは小学生の時期であろうとの推測から、小学生の対人距離のとり方を調査することにした。具体的な研究目的は次の通りであった。

(1) 投影法的な手法によって、対人距離の学年ごとの変化と性差を検討する。

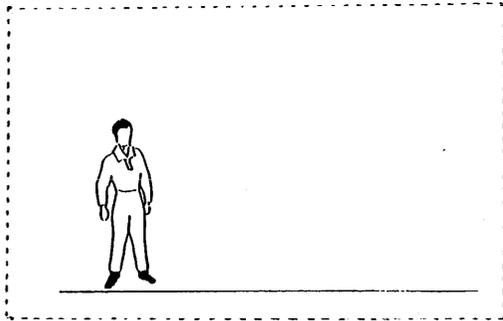
(2) 対人距離が対象とする人物ごとにどのように使い分けられているかを検討する。

#### <手続き>

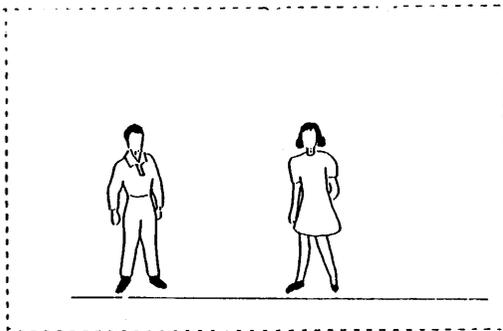
対人距離の測定方法は次のような手続に従った。B4版大の用紙の左端に描かれている線画の人物画像に対して、被験者は自分の分身である線画の人物画像を適当な位置に貼付ける。この手続を図1に例示した。このようにして、用紙に描かれている人物画像と被験者の分身画像との間の対人距離が測定された。

このとき次のような教示がなされた。「あなたが絵に描いてあるような人と話をする場面を想像してくだ

さい。次に、切り抜きの絵をあなた自身だと思って、絵に描いてある人とあなたが話をする場面を作って下さい。絵に描いてある人に対して、あなた自身の切り抜き絵を適切な位置に貼付ければよいのです」。なお、教示は口頭でなされ、学年によって多少の表現の違いがあった。



回答用紙の例  
(対象人物：男子のともだち)



回答例  
(女子の被験者の場合)

図1 調査用紙の例

用紙に描かれている対象となる人物画像と被験者自身の分身画像を図2に示した。対人距離を測定する対象となった人物画像は、「ともだち(男子・女子)」「先生(男性・女性)」「親(父・母)」の6種類であった。人物画像の高さは12cmであった。

被験者の分身である人物画像(貼付け用に用意された人物画像)は、男子と女子の切り抜き絵であった。男子の被験者には「男子の人物画像」を、また、女子の被験者には「女子の人物画像」をそれぞれ6枚配布した。人物画像の高さは9.5cmであった。

以上の投影法的手法はMAPS人格投影法(台利夫, 19

75<sup>6)</sup>;1981<sup>7)</sup>)を参考にして考案したものである。

被験者は公立小学校の1年生から6年生までの男女で、合計204名であった。被験者の内訳を表1に示した。

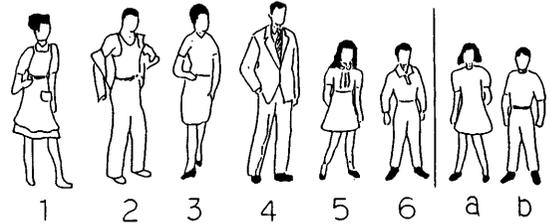


図2 本研究で使用した人物画像の縮図

- 1：母親 2：父親 3：先生(女性) 4：先生(男性)  
5：友人(女子) 6：友人(男子)  
a：女子の被験者自身の人物像  
b：男子の被験者自身の人物像

表1 被験者の内訳

学年	男子	女子	合計
1	18	17	35
2	17	14	31
3	20	19	39
4	19	16	35
5	10	13	23
6	26	15	41
合計	110	94	204

<結果と考察>

(1) 対人距離の全体的な傾向

対人距離の全体的な傾向を見るために、対人距離に関して因子分析を行なった。主因子解法後、固有値1.0以上の因子についてVarimax回転をした結果は、表2の通りであった。

①1~2年生の男子では、第1因子として『同性および異性の友人』『異性の先生』『父親』が、第2因子として『同性の先生』『母親』が見出された。一方、1~2年生の女子では、第1因子として『同性および異性の先生』『両親』が、第2因子として『同性および異性の友人』が見出された。

表2 主因子解法の結果(1): 1~2年生

〈変数名〉 1: 同性友人 3: 同性先生 5: 同性親  
2: 異性友人 4: 異性先生 6: 異性親

	男性		女性		
	FACTOR		FACTOR		
	1	2	1	2	
1	0.768	0.326	1	0.022	0.661
2	0.674	-0.146	2	-0.059	0.872
3	0.192	-0.821	3	0.628	0.360
4	0.654	-0.414	4	0.613	0.517
5	0.608	-0.237	5	0.873	-0.058
6	0.044	-0.892	6	0.834	-0.225
回転前の 寄与率	38.6%	23.2%	回転前の 寄与率	38.9%	25.8%

表2 主因子解法の結果(2): 3~4年生

	男性		女性		
	FACTOR		FACTOR		
	1	2	1	2	
1	0.668	-0.182	1	0.866	0.124
2	-0.192	0.826	2	-0.349	0.781
3	0.808	0.216	3	0.788	0.261
4	0.227	0.772	4	0.361	0.714
5	0.841	0.006	5	0.783	-0.013
6	0.590	0.438	6	0.359	0.665
回転前の 寄与率	39.6%	23.6%	回転前の 寄与率	44.1%	22.8%

表2 主因子解法の結果(3): 5~6年生

	男性		女性		
	FACTOR		FACTOR		
	1	2	1	2	
1	0.805	-0.201	1	0.638	0.302
2	-0.119	0.920	2	-0.018	0.930
3	0.906	0.086	3	0.935	0.065
4	0.838	0.045	4	0.767	0.146
5	0.713	0.048	5	0.896	-0.044
6	0.519	0.473	6	0.239	0.859
回転前の 寄与率	49.5%	18.6%	回転前の 寄与率	49.1%	25.1%

②3~4年生の男子は、第1因子として『「異性の友人」「異性の先生」』が、第2因子として『「同性の友人」「同性の先生」「父親」』が見出された。一方、3~4年生の女子は、第1因子として『「異性の友人」「異性の先生」「父親」』が、第2因子として『「同性の友人」「同性の先生」「母親」』が見出された。

③5~6年生の男子は、第1因子として『「異性の友人」』が、第2因子として『「母親を除く残り全部」』が見出された。一方女子は、第1因子として『「異性の友人」「父親」』が、第2因子として『「残り全部」』が、見出された。

上述の結果は表3のようにまとめることができる。

表3 各因子の内容

学年	男子		女子	
	第1因子	第2因子	第1因子	第2因子
1-2	同性友人 異性友人 異性先生 父親	同性先生 母親	同性先生 異性先生 父親 母親	同性友人 異性友人
3-4	異性友人 異性先生	同性友人 同性先生 父親	異性友人 異性先生 父親	同性友人 同性先生 母親
5-6	異性友人	同性友人 同性先生 異性先生 父親	異性友人 父親	同性友人 同性先生 異性先生 母親

以上のことから次のような考察ができる。

a) 1~2年生の女子では、友人かそれ以外の大人という距離の使い分けがみられるのに対し、男子にはこうした傾向はみられない。

b) 3年生以上になると、「同性-異性」に関する因子が見出されてくるのがわかった。つまり、相手が同性か異性かによって対人間の距離を使い分けられていることが示された。このことから、3年生以上になると、対人場面でのパーソナル・スペースのとり方に相手の性の影響がみられることが示唆された。

c) 3年生以上の女子では、「父親」が異性の因子の中にも含まれてくるのがわかった。一方、男子ではこうした傾向はみられず、むしろ、「母親」がいずれの因子にも含まれてこないことが特色となっている。3年生以上の女子は、父親を異性の一人と見なしていること

が対人間の距離のとり方から示唆された。

d)5~6年生になると、異性の友人に対する因子が独立して見られるようになり、いわば恋愛対象としての異性という意識の生じてくることが示唆された。

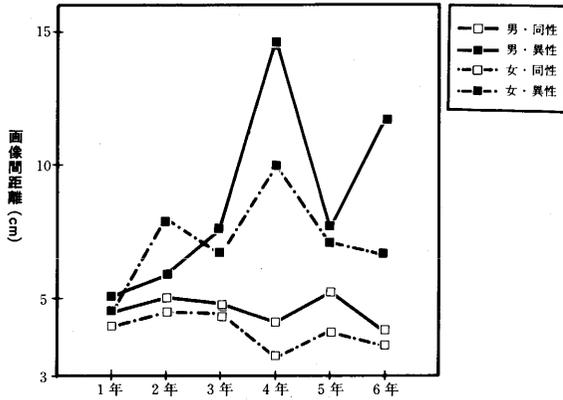


図3 「友人」との間の距離

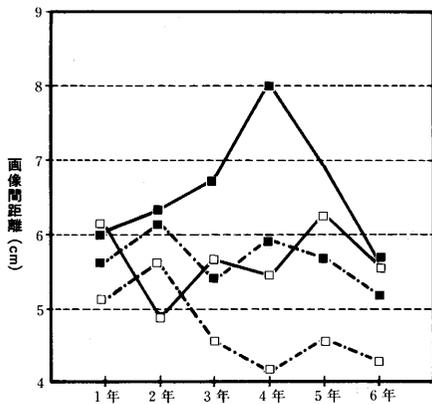


図4 「先生」との間の距離

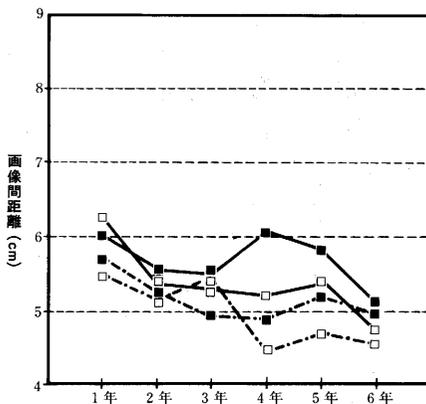


図5 「両親」との間の距離

(2)対人距離の平均と変数間の相関

対人距離の平均と変数間の相関は表4の通りであった。図3に「友人」、図4に「先生」、図5に「両親」との対人距離の変化を図示した。

表 4 人物画像間の距離の平均 (mm) と相関(1) 1年生 (上段:男子 下段:女子)

〈変数名〉 1:同性友人 3:同性先生 5:同性親  
2:異性友人 4:異性先生 6:異性親

Variables	MEAN	S. D.
1	52.111	10.872
2	58.000	17.808
3	61.000	26.051
4	60.333	20.819
5	62.722	22.296
6	60.444	19.794

++++ CORRELATION MATRIX +++++

	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	-0.152	1.000				
3	0.283	0.443	1.000			
4	0.008	0.766	0.513	1.000		
5	0.400	-0.009	0.396	0.344	1.000	
6	-0.152	0.683	0.677	0.590	0.061	1.000

Variables	MEAN	S. D.
1	47.000	8.282
2	51.824	13.089
3	51.118	12.681
4	56.176	22.930
5	55.000	13.195
6	57.059	13.909

++++ CORRELATION MATRIX +++++

	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.422	1.000				
3	0.656	0.449	1.000			
4	0.092	0.542	0.477	1.000		
5	0.037	0.500	0.546	0.887	1.000	
6	-0.012	0.361	0.577	0.597	0.649	1.000

表 4 人物画像間の距離の平均 (mm) と相関(2) 2年生

Variables	MEAN	S. D.
1	52.357	12.263
2	85.357	25.575
3	56.143	16.915
4	61.500	17.577
5	51.357	10.958
6	52.714	10.727

++++ CORRELATION MATRIX +++++

	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.090	1.000				
3	0.028	-0.082	1.000			
4	0.105	0.568	0.141	1.000		
5	-0.032	-0.306	0.314	-0.084	1.000	
6	0.087	-0.567	0.319	-0.195	0.447	1.000

Variables	MEAN	S. D.
1	57.824	11.351
2	65.941	24.033
3	48.765	9.521
4	63.412	20.272
5	53.588	15.808
6	55.647	11.193

++++ CORRELATION MATRIX +++++

	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.632	1.000				
3	-0.280	-0.263	1.000			
4	0.304	0.264	-0.032	1.000		
5	0.428	0.336	-0.035	0.555	1.000	
6	-0.094	-0.227	0.307	-0.131	0.216	1.000

表 4 人物画像間の距離の平均 (mm) と相関(3)  
3年生

Variables	MEAN	S. D.				
1	55.300	15.083				
2	81.700	26.062				
3	56.600	18.015				
4	67.400	24.438				
5	53.050	14.548				
6	54.800	12.123				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.103	1.000				
3	0.482	-0.184	1.000			
4	0.472	0.125	0.447	1.000		
5	0.488	-0.203	0.370	0.233	1.000	
6	0.295	0.067	0.160	0.224	0.225	1.000

---

Variables	MEAN	S. D.				
1	51.737	20.923				
2	73.526	28.263				
3	45.474	10.033				
4	53.737	11.539				
5	55.474	26.931				
6	49.053	12.584				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.107	1.000				
3	0.557	-0.038	1.000			
4	0.500	0.293	0.747	1.000		
5	0.654	-0.038	0.415	0.485	1.000	
6	0.445	0.216	0.511	0.488	0.320	1.000

表 4 人物画像間の距離の平均 (mm) と相関(5)  
5年生

Variables	MEAN	S. D.				
1	59.600	15.147				
2	82.100	52.245				
3	63.100	25.082				
4	69.400	23.170				
5	53.900	10.416				
6	58.200	14.056				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.024	1.000				
3	0.729	0.233	1.000			
4	0.298	0.064	0.593	1.000		
5	-0.098	0.488	0.145	0.318	1.000	
6	0.419	0.282	0.641	0.442	0.259	1.000

---

Variables	MEAN	S. D.				
1	45.462	14.124				
2	76.769	35.536				
3	46.000	12.397				
4	56.769	17.480				
5	47.077	7.195				
6	51.923	17.113				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.243	1.000				
3	0.461	0.023	1.000			
4	0.432	-0.046	0.955	1.000		
5	0.583	0.004	0.880	0.872	1.000	
6	0.229	0.791	0.251	0.139	0.199	1.000

表 4 人物画像間の距離の平均 (mm) と相関(4)  
4年生

Variables	MEAN	S. D.				
1	45.947	8.870				
2	139.221	49.030				
3	51.526	14.996				
4	76.000	28.455				
5	49.316	9.836				
6	56.895	17.183				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.286	1.000				
3	0.164	0.266	1.000			
4	-0.325	0.508	0.325	1.000		
5	0.187	0.150	0.786	0.114	1.000	
6	-0.072	0.210	0.830	0.272	0.879	1.000

---

Variables	MEAN	S. D.				
1	38.563	6.661				
2	103.438	44.255				
3	41.438	4.500				
4	59.438	21.740				
5	44.500	4.168				
6	48.813	11.248				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.067	1.000				
3	0.797	-0.097	1.000			
4	0.834	0.215	0.632	1.000		
5	-0.291	0.197	-0.445	-0.120	1.000	
6	-0.042	0.343	0.074	0.383	0.267	1.000

表 4 人物画像間の距離の平均 (mm) と相関(6)  
6年生

Variables	MEAN	S. D.				
1	45.692	10.377				
2	120.385	51.483				
3	55.846	21.193				
4	56.577	16.757				
5	47.346	11.734				
6	51.077	7.751				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	-0.097	1.000				
3	0.749	-0.018	1.000			
4	0.591	0.035	0.789	1.000		
5	0.559	-0.071	0.727	0.597	1.000	
6	-0.033	0.249	0.195	0.182	0.134	1.000

---

Variables	MEAN	S. D.				
1	40.400	6.448				
2	72.400	24.608				
3	42.667	8.276				
4	55.933	13.329				
5	45.733	3.872				
6	49.800	15.955				

---

++++ CORRELATION MATRIX +++++						
	1	2	3	4	5	6
1	1.000					
2	0.162	1.000				
3	0.513	-0.042	1.000			
4	0.062	0.687	0.375	1.000		
5	0.373	-0.188	0.521	-0.176	1.000	
6	0.564	0.466	0.479	0.262	0.229	1.000

①1~6年生について、性別(男、女)×対象画像条件(男・女の友人、男・女の先生、父親、母親)の分散分析をした。その結果が表5である。2年生から6年生にかけて対象画像間に有意差がみられた。これは、「異性の友人」に対する距離がきわだって大きいことによるものと思われる。また、4年生と6年生においては、性別に関して有意差がみられた。

表 5 分散分析の結果 (F 値) (df)

学年	性別	対象画像
1	2.00 (1,33)	2.16 (5,165)
2	0.59 (1,29)	8.94* (5,145)
3	3.09 (1,37)	12.76* (5,185)
4	9.11* (1,33)	63.81* (5,165)
5	2.96 (1,21)	5.76* (5,105)
6	9.78* (1,39)	35.32* (5,195)

\* p < .01

対象画像ごとの分散分析(学年×男・女の対象画像)では、「友人」に関して有意差があった。男子では、学年(F(5,104)=6.82, p<.01)、対象画像(F(1,104)=87.79, p<.01)、交互作用(F(5,104)=13.24, p<.01)、一方、女子では、学年(F(5,88)=3.36, p<.01)、対象画像(F(1,88)=78.67, p<.01)、交互作用(F(5,88)=5.18, p<.01)、にそれぞれ有意差がみとめられた。

②「友人」における性差を検討するために、「同性と異性」の平均値の差の検定(両側)をした。その結果が表6である。「友人」に関しては、男子は3年生から、女子では2年生から、同性より異性との対人距離の大きいことがわかる。

表 6 同性画像と異性画像との距離の平均の差の検査 (両側)

対象画像	被験者の性別	学年					
		1	2	3	4	5	6
友人	男			*	*	*	
	女		*	*	*	*	*
先生	男		*		*		
	女			*	*		*
両親		n. s.					

\* : p < .05

この傾向は因子分析の結果とよく似たものであった。ただし、5年生の男子で有意差がみられなかったが、これは被験者数が少なかったためではないかと考えられる。また、「先生」に関して、女子は3年生以上(ただし、5年生を除く)では同性の先生より異性の先生との対人距離の大きいことがわかる。

③「友人」における学年差を検討するために、学年ごとの距離の平均値の差の検定(両側)をした。同性についてはいずれも有意差がなかったが、異性については表7のような結果が得られた。

表 7 「異性の友人」画像との距離の平均の差の検定 (両側)

学年	1	2	3	4	5	6
1				m*, f*		m*
2				m*		m*
3				m*, f*		m*
4					f*	f*
5						

m\*:男子 p<.05 f\*:女子 p<.05

男子に関しては、4年生以上(ただし、5年生を除く)と3年生以下で、距離のとり方に差がみられた。すなわち、異性に対する距離は4年生から大きくなる傾向があった。一方、女子に関しては、4年生の距離が他の学年(ただし、2年生を除く)より大きいという傾向以外は、学年による変化はみられなかった。

(3) きょうだい関係と対人距離

きょうだい関係と対人距離についての分析をした。その結果、①5~6年生の長女はそれ以外の女子に比べ、「異性の友人」との距離が大きかった(t=2.102 df=25 p<.05)

②3~6年の女子では、本人以外のきょうだいが女だけの者は、男だけの者に比べ、「父親」との距離が大きかった。(t=3.063 df=46 p<.05)

③3~4年生の男子では、ひとりっこ(n=6)は、本人以外のきょうだいがある男だけの者(t=2.550 df=19 p<.05)や女だけの者(t=2.313 df=13 p<.05)に比べ、「父親」との距離が大きかった。以上の結果についてはサンプル数が少ないが、きょうだい関係と距離との間に何らかの関連性のあることが示唆された。

(4) その他

以上のような結果の他に、画像の置き方に関して特殊なケースが認められた。5年生のある男子は、自分の分身画像を、同性の友人画像に対して用紙の一番端

に置き、異性の友人画像に対しては背中合せに置いたのである。しかし、大人の画像に対しては特別な傾向は見られなかった。この児童の担任教師によると、「この児童は学級の中の問題児であり、よく他の児童とトラブルを起している」とのことであった。これは、実際の交友関係が本調査による画像間距離に反映されていた一つのケースであったが、この例から、問題児をピックアップする際にこうした調査が役立つのではないかと考えられる。

2. 研究II：対人距離における個人要因

<研究目的>

距離のとり方と個人要因との関係を調べてみた。個人特性として、P-Fスタディの反応と学級内での地位をとりあげた。P-Fスタディを使用したのは、P-Fスタディの場面が実際の対人場面をよく反映していると考えたことと、研究Iで使った投影法的手法とP-Fスタディとの類似性が他の検査法に比べてかなり高いと判断したことによる。また、学級内の地位をとりあげたのは、学級内の交友関係のあり方が研究Iで使った投影法的手法のうちの「友人」の対象画像との距離のとり方に反映されているのではないかと考えたからである。

具体的には次の2点を研究目的とした。

(1) 対人間の距離のとり方とP-Fスタディとの関連性を調べる。

(2) 対人間の距離のとり方と学級内の地位との関連性を調べる。

<手続き>

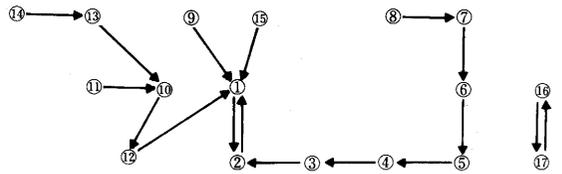
被験者の個人特性はP-Fスタディ（住田・林・一谷.1973）<sup>8)</sup>によって調べた。また、学級内の地位はニア・ソシオメトリー（好きな男子と好きな女子の名前をP-Fスタディの裏表紙に記入させた）によって調べた。なお、対人距離は研究Iで得られた結果をそのまま利用した。

被験者は研究Iと同じ学級の4年生であった。

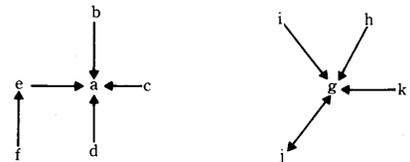
<結果と考察>

(1) 学級内のソシオグラムを図6と7に示した。男子どうしでは、「①」を中心とする学級内の交友関係がうかがえる。女子どうしでは、「a」「g」を中心とするグループとその他のグループの存在がうかがえる。異性間では、男子の「②」「⑨」「⑬」などを中心とした学級内の交友関係が、一方、女子では、「g」「c」などを中心とした交友関係がうかがえる。

以上のことから、男子間の学級内の交友関係が一つの大きなまとまりを持っているのに対して、女子間では、学級内にいくつかのグループからなる交友関係のあることがわかった。また、異性間の学級内の交友関係と同性間の交友関係では中心となる児童が大きく変わることがわかった。このことは、同性から見る好きな人と異性から見る好きな人との間には見る側の認識の違いがあることを示唆している。



男子間のソシオグラム



女子間のソシオグラム

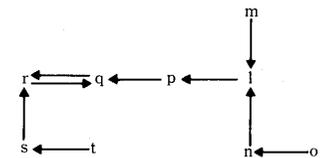


図6 小学4年生の学級内のソシオグラム (同性間の選択)

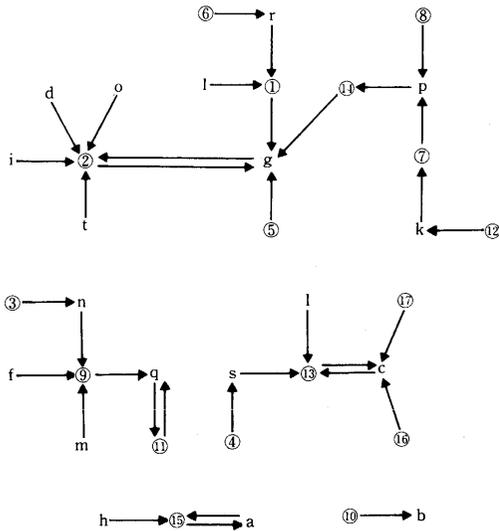


図7 小学4年生の学級内のソシオグラム  
(異性間の選択)  
(数字: 男子 アルファベット: 女子)

表 8 ニア・ソシオメトリーの相関

上段: 男性 下段: 女性  
被選択者 X (1): 男子 X (2): 女子 X (3): 合計

CORRELATION COEFFICIENTS MATRIX

	X ( 1)	X ( 2)	X ( 3)
X ( 1)	1.000		
X ( 2)	0.172	1.000	
X ( 3)	0.643	0.865	1.000
X ( 1)	1.000		
X ( 2)	0.452	1.000	
X ( 3)	0.836	0.868	1.000

(2) ニア・ソシオメトリーと対人距離との相関を表8と9に示した。ニア・ソシオメトリーの被選択者数間の相関から、男子では、同性と異性間に相関がないことが特色としてあげられる。これは、男子が同性の選択基準と異性の選択基準をかなり変えていることを示している。

ニア・ソシオメトリーと対人距離との相関に関しては、女子の場合に、男子からの選択数と「異性の友人・異性の先生・父親」における対人距離との間に高い正の相関がみられた。また、女子と男子からの選択数の合計と「異性の友人」との間にも高い相関がみられた。これらのことから、女子に関しては、異性との間に距離を大きくとる人ほど男子から人気のあることが知られた。

(3) P-Fスタディの評点因子と対人距離との相関を表10に示した。男子では、「N-P」%と「同性の友人」の間に、一方、女子では「N-P」%と「同性の先生」の間に高い相関が見られた。「N-P」(要求固執型)は欲求不満に関わる問題の解決を強調する内容の反応であるとされている。

また、「GCR」%については、女子において、「同性の先生」と正、「母親」とは負の比較的高い相関がみられた。さらに、重回帰分析をしたところ、「GCR」%について、男子は「異性」(.546)、女子は「同性」(.560)との間に高い相関がみられた。「GCR」(Group Conformity Rating)は世間並の常識的な適応が出来るかどうかを知る指標とされている。

P-Fスタディの評点因子と対人距離との間には、以上のような関係が見出された。

表 9 ニア・ソシオメトリーの選択数と画像間距離の相関

上段: 男性; 下段: 女性  
被選択者 X (1): 男子 X (2): 女子 X (3): 合計  
Y (1): 「ともだち」同性 Y (2): 「ともだち」異性  
Y (3): 「先生」同性 Y (4): 「先生」異性  
Y (5): 「親」同性 Y (6): 「親」異性

	Y ( 1)	Y ( 2)	Y ( 3)	Y ( 4)	Y ( 5)	Y ( 6)
X ( 1)	0.119	-0.159	-0.058	-0.268	-0.073	-0.126
X ( 2)	0.083	0.194	0.033	0.058	0.159	0.018
X ( 3)	0.125	0.070	-0.004	-0.091	0.087	-0.050
X ( 1)	0.230	0.561	0.262	0.317	0.226	0.388
X ( 2)	0.192	0.621	0.059	0.505	-0.153	0.521
X ( 3)	0.246	0.695	0.182	0.488	0.032	0.537

表 10 P-F スタディの評点因子と画像間距離の相関

上段：男性 下段：女性  
 X(1)：「ともだち」同性 X(2)：「ともだち」異性  
 X(3)：「先生」同性 X(4)：「先生」異性  
 X(5)：「親」同性 X(6)：「親」異性  
 <評点因子> Y(1)：E Y(2)：I Y(3)：M Y(4)：O-D  
 Y(5)：E-D Y(6)：N-P Y(7)：GCR

## CORRELATION COEFFICIENTS MATRIX

	X(1)	X(2)	X(3)	X(4)	X(5)	X(6)
Y(1)	-0.179	-0.130	0.061	0.150	0.105	0.228
Y(2)	0.289	0.242	-0.052	-0.062	0.059	-0.124
Y(3)	-0.034	-0.063	-0.037	-0.145	-0.212	-0.205
Y(4)	-0.356	-0.286	0.219	0.130	-0.112	0.139
Y(5)	-0.418	-0.029	-0.281	0.337	-0.160	-0.132
Y(6)	0.538	0.137	0.006	-0.349	0.119	-0.064
Y(7)	0.226	0.233	-0.261	-0.223	-0.265	-0.319
Y(1)	-0.095	0.248	-0.213	-0.075	0.234	0.248
Y(2)	-0.018	0.039	0.090	0.264	-0.152	0.197
Y(3)	0.117	-0.437	0.207	-0.185	-0.142	-0.495
Y(4)	0.145	-0.193	0.118	-0.031	-0.209	-0.294
Y(5)	-0.393	-0.048	-0.443	-0.053	0.047	0.214
Y(6)	0.391	0.129	0.529	0.089	0.046	-0.087
Y(7)	0.303	-0.102	0.446	0.233	-0.468	0.006

## 3. 結 論

上述の結果と考察を次のように要約することができる。

(1) 小学3年生以上になると同性と異性に対する距離のとり方にかなりははっきりとした認識の違いが見られるようになる。そして、5~6年生になると、距離のとり方に異性の友人とそれ以外の人という認識の違いが見出されるようになる。とくに、5~6年生の女子では、父親が異性の友人と同じ認識のもとにあることが知られた。

(2) 友人との距離のとり方については、男子は3年生から、女子では2年生から、同性より異性との対人距離の大きいことがわかった。

(3) 男子に関して、異性の友人との距離は4年生から大きくなる傾向のあることが知られた。一方、女子に関しては、4年生の距離が他の学年(ただし、2年生を除く)より大きいという傾向以外は、学年の変化はみられなかった。なお、同性の友人との学年による距離の変化は男女ともにみられなかった。

(4) 4年生の学級内地位について調べたところ、女子に関しては、男子からの選択数に基づく地位の高さと異性の相手に対する距離の大きさとの間に正の関係

がみられた。

以上が主な結果であった。対人距離が発達とともに大きくなるという結果はみられなかったが、相手の性に応じて対人距離が使い分けられていることの発達的变化は認められた。相手の性に応じた対人距離の使い分けは、小学2~3年生あたりから始まると考えられる。年齢にすると8~9歳前後に相当することになり、市橋(1979)<sup>5)</sup>の推測する対人距離が明確化される時期とほぼ一致することがわかった。

対人距離の認識の仕方も年齢の発達につれて変化することが知られた。小学3~4年生の対人距離の認識は相手が誰れかということより相手が同性か異性かというかなり包括的なものであるが、小学5~6年生になると、異性の友人についての対人距離の認識が分離してくることがわかった。そして、女子は父親を異性の友人と同じ対人距離の認識の範中に入れていたこともわかった。

以上のような本研究の結果から、対人距離の大きさが発達とともに単調に変化するという考え方はあまりに短絡的であることがわかった。対人距離が発達とともに変化するとするならば、それは大きさではなく、対人距離の果す役割が変化していると考えた方がよさそうである。

## 文 献

- 1) 渋谷昌三 1982a MAPSによる親和欲求の検討(1) : 画像の種類、数、距離の分析. 日本心理学会第46回大会発表論文集, 287.
- 2) 渋谷昌三 1982b MAPSによる親和欲求の検討(2) : 物語の内容、画像数、画像の種類、画像間距離の分析. 日本教育心理学会第24回大会発表論文集, 476-477.
- 3) 渋谷昌三 1982c MAPS人格投影法による親和欲求の検討. 文部省科学研究費総合研究(A)報告書, 88-99.
- 4) 渋谷昌三 1984 MAPS人格投影法とMASとの関連性について. 日本心理学会第48回大会発表論文集, 604.
- 5) 市橋秀夫 1979 比較行動学的見地よりみた精神分裂病の精神病理: ナワバリ行動障害の問題を中心に. 精神神経学雑誌, 81-9, 587-605.
- 6) 台 利夫 1975 MAPS人格投影法 日本文化科学社 東京.
- 7) 台 利夫 1981 MAPSによる関係体験の比較文化的検討. 筑波大学心理学研究, 3, 17-23.
- 8) 住田勝美・林 勝造・一谷 彊 1973 PFスタディ: 欲求不満テスト使用手引 三京房 京都.

## Abstract

**Projective study on Developmental Change in Interpersonal  
Distance in Children**

Shozo SHIBUYA

A projective questionnaire format was devised by incorporation of the concept of MAPS. This format was used to investigate how the interpersonal distance changes with development in children. The subjects consisted of 1st to 6th grade primary school children.

From the results of study I, the interpersonal distance with friends was found to increase from the opposite sex from the 3rd grade in boys and from the 2nd grade in girls. It was suggested that the placement of interpersonal distance when in company with the opposite sex differs qualitatively from that in company with other people (friends and teachers of the same sex, and parents).

From the results of study II, a certain relation was found to exist between the interpersonal distance and sociometrically-perceived position in a class.

The above results suggested that the assignment of interpersonal distance changes with development.